**正月を迎へて**（南部ルソン）宗教の盛んな比島、それだけに信仰は正しい彼等は元朝夕には特に祈る事を忘れない、新年の朝はどの家庭でも日本と同じく一家揃つて日の出を迎へ新しき年のお祈りを行ふ

# 南方からの新年だより

## 門松立てゝ夏衣で同禮

### 戰後初に迎ふジャワの新年

戰後第一年を迎へた在ジャワ皇軍將兵及び全邦人は元旦早朝、遙く宮城に向つて遙拜を行ひひとしく想ひを故國にはせて輝くまで勝ち拔く決意の新しい心構へに燃して明日の戰ひを誓つてゐる

× × ×

三千浬をへだてる南方のこの島では故國の正月の氣分にふれる術もないが各部隊では夜も日に次ぐ戰たる熱帶と大東亞戰の準備のなかに徐々余裕をみせて年の瀬おしせまつて餅つきが行はれた、何しろジャワでは初めてのことで杵も臼も新調、又杵は名産チーク、臼[illegible]達者な兵隊さんがたちまち作りあげてしまつた、米の國ジャワには餅米の心配もいらない、ペタンコペタンコ」拍子の木臼で威勢のいい杵の音が聞えると原住民は物珍らしさうに集つてきてこれをみ守つてゐる、「あれは食べるものですか」とけげんさうな顔をしてゐる者もあつた、ジャワには内地に見るやうな勢ひのよい松はないが葉の細くやはらかなメルクシー松がある、又竹も到る處に豐富で部隊及び邦人住宅にはささやかなかど松がたてられた、そしてつきたてのお餅はまづ戰死した勇士にささげられ元旦を迎へて全部につが[illegible]たのであるがまことに[illegible]にであつた

× × ×

ジャワは日本と違ひ島内到る處異つた人種が住み從つて風俗、習慣もそれぞれ違つて一年間に正月が四回づつ來る、先づインドネシア人の正月、これは回教暦による所謂「ジャワ正月」で昨年は十一月十一、十二の兩日であつた、回教徒の勤行である斷食の期間を終へ、斷食明けに迎へる正月で一名「レバラン・プアサ」とも言はれる、この日は全島到る處ではるかメッカに向つて野外禮拜が行はれ[illegible]又ジャワに回教徒が渡來した當時熱心な信徒であつた土侯が祭つてあるジャカルタや泗市附近にある「ルアル・バタンの墓」や聖者の墓と言はれるバンテン州の森の世界に殘る「スルタン・ハサノジンの墓」に詣るのが正月の主な行事であつたが戰後最初の新年を迎へて昂揚の歡喜の中に感謝と悦びに溢つたのである

次に在ジャワ八十萬の華僑の正月は太陰暦により本年は太陽暦の二月五日にあたつてゐる、中國の正月と殆ど同じで新年の一週間前に[illegible]と言つてかまどの神を祭る、傳説によるとこのお祭はかまどの神が天に昇つてその家の主人の一年間における善惡を七日間に亘つて天帝に報告すると傳へられかまどには飴をそなへるのであるがこれは神がその飴を食べた時は飴が口にねばりついて天に昇つても報告することが出來ないやうにするためだと言ふ、然し、正月前に夜市「パッサル・マラム」を開くことはジャワ古來のものを[illegible]が正月の行事のなかに取り入れ爆竹は支那から傳はつたものだと言はれるその他年越し餅を作ることや大晦日は夜半まで元旦の支度や掃除に多忙をきはめ元旦は掃除もしないことなど日本とよく似てゐる行事だ、又原住民と同じく必ず商賣の挨拶廻りをするお正月は特に念の入りきれいにして親類、知己に新年の挨拶廻りをしたり子供にお年玉を與へる習慣は原住民華僑と共にアジア人共通のものである

次はジャワ三千人の印度人の正月これはヒンヅー暦により昨年は十一月八日が元旦であつた、この日は肉、魚類、酒類を一切やめ野菜のみで一日全体をし神に敬虔ないのりをささげるのであつて人種は異つても新年と宗教は密接な關係があるのは同じである

× × ×

さて、我々がジャワで迎へる正月は雨期の最中である、ジャカルタをはじめ全島到る處一日一回必ず雨が降る、暑氣が再び日中どんよりと曇つてむせるやうな暑さ、夜中まで眠れぬ日が多い、夕方になつて襲來するスコールが僅に鬱苦しい空氣をとり去つてくれるがスコールには雷がつきもので時に惡い雨空が晴きスコールが止んでも夜空に稻妻が明滅しジャワの子供は指して「トアン（旦那）ゴロ（GOEROEH）」と言ふゴロゴロによく似たマライ語だ、雷が聞くのは一週間に一回位、ジャワの正月は松竹と雨と雷に暮れる、オーバがほしい等とは夢にも思はない、原住民は相變らずの[illegible]、最近市長の[illegible]しが目立つて來た[illegible]、横縦、絞り模樣などの[illegible]にも洋裝の[illegible]だ、正月風景にはおよそ[illegible]いが日本人に好感をよせる邦人の心境とでも言ふべくすべてよく調和がとれてゐる、又先日ジャカルタ州政廳の附近に[illegible]の肝煎りで本屋が開かれることになりはるばる内地から送られてきた數千冊の本が店内一ぱいつまれいさ開店となつたが待ちあぐんでゐたお客によつてたちまち買ひつくされ僅五時間で閉店閉際となつてしまつた、在住邦人が如何に日本の本が讀みたかつたかは此慰問としても、これが一番うれしいお年玉となつたことは言ふまでもない

× × ×

元旦は原住民、華僑、印度人にとつて何の關係もないが元旦祭にあたり戶毎に日章旗をたてゝこの日を祝ひ往來する邦人は誰を知ると知らずにかかはらず「明けやしてお目出度う」「お目出度う、今年もガ一ばいやりませう」と力強い年頭のあいさつを交して行く、「さあ、二年目も勝ち拔くぞ」この闘志こそは前線、銃後を結ぶ新年の合言葉でありジャワの新年の言葉であり明日への進軍ラッパである

## 大和撫子の姿颯爽

### 新生昭南港のスケッチ

眠れる海…ブラカンマテが乳を流かし込んだやうな淡いコバルト色の空にくつきりと稜線を描くこう高い椰子の梢あたりからしじまを破るわが荒鷲の力強い爆音も響いて來る——南方共榮圏の表玄關、新生昭南が一夜の眠りから醒めて一日の躍動をはじめたのだ、だが赤道のお膝元だけに朝の爽涼はほんのひとときしか味はへない、夜が明けるとそれを待ち侍へてゐたかのやうに烈日がギラギラ輝きはじめアスファルトはその照り返しで閉く間に燒けつくやうな暑さに變つて來るのだ、しかしその上を闊歩する大和撫子の何と逞しく美しいことよ、パナマ帽に涼しい白いワンピース、彼女たちは素足の原住民たちに混つて職場へ急ぐのである、やがてそちこちのオフイスからは豆を煎るやうなタイプの音も聞こえて來よう

×

眼を港の方へ移すと一面油を流したやうな海の面に灰色をしたいくつもの船がどつしり浮んでゐる、内地へ一刻も早く戰爭物資を運ぼうと手ぐすね引いてゐる日本の船だ、船といへば開戰以來何處へとなく姿を消してゐた赤いジャンクの復活も最近とくに目覺ましい、鳥の羽を翼に立てかけたやうな帆が無數に浮んでゐるさまは新生昭南港の風物である、海に沿ふパダンにはかつては東亞侵略の英米人客で賑はつてゐたラフルズ・ホテルが「昭南旅館」のその名も新しい日本名の看板に塗り替へられて共榮圏建設の旅をする人たちの憩ひの場所となつてゐる、そしてこのホテルの大ホールでは以前彼奴らが頽廢的なジャズソングで踊り狂つてゐたものである、ところがいまは同じステージで現地人のブラスバンドが「愛國行進曲」「海ゆかば」など勇壯活潑に奏でてゐるのだ、さういへば以前近くかつてのクリケット・クラブも「昭南クラブ」に變つた、以前クリケット好きのイギリス人は廣い芝生の上でこの遊びに浮身をやつしてゐたものだがいまでは昭南在住日本人の眞面目な樂の所となり芝生の上では時折原住民などの野球試合も催される

×

變つた建物の名前をついでに擧げれば昭南旅館と博物館がある、昨年の四月廿九日天長節の佳き日を期してわが軍樂隊の市中行進が行はれたがその時市内の映畫館も昭南新生以來はじめて公開したカセイ劇場は「大東亞劇場」レックス・ユートンセンは「大和劇場」の看前でそしていまでは日本のニュース映畫や内地を偲ばせる映畫が續々上映されて兵隊さんたちとより現住民たちを喜ばせてゐるもとのシンガポール博物館はこれまた「昭南博物館」の名で公開されてゐる、この博物館はクアラ・ルンプール博物館の館長、タイピン博物館の人類學とともに南方民族の研究に力を入れてゐたものであるがいまは南方の民族さんたちの良き研究所となつてゐるやはり昨年の四月廿九日に開館したが以來入館者は約[illegible]萬人、その[illegible]を日本の兵隊さんが占めてゐるといふ

×

この博物館へはいつて思はず目を瞠らせるのは東亞侵略の巨魁——英人スタンフォード・ラフルズの像が立てかけてあることだ、[illegible]かな日本文の說明もついてゐる、本像は西暦一八八七年六月ビクトリア女皇在位五十年祝賀にあたりシンガポールの建設者としての彼の功績を記念して現在の市役所前廣場中央に建設せられその後一九一九年二月英國のシンガポール占領百年記念祭に際しアンダーソン橋正面廣場に移されたものをここに新生昭南市の建設に際し昭和十七年九月本博物館に移轉されたものである、つまりラフルズの像は文字通り博物館的存在に化したわけである

## 駝鳥主義から勤勞へ

### 皇土香港に二回目の春

**香港神社へ初詣**

【香港三十一日發同盟】皇土香港はここに第二回目の新春を迎へた、想へば昭和十六年の聖誕祭は英國最後の日であつた、この日ユニオンジヤックの旗は總督から引き下され日章旗が燦然と最高峰香ケ峰の上に翻へつた、夫から一週間、東亞人の手に歸した香港は最初の新年を迎へた、去年の新年は戰禍深くも多忙の新春ではあつた、元日から軍政廳では香港建設のための會議が深夜を分たず續けられた、決議は着々と實行に移された四日には敵國人收容令が發せられ香港放送局が力強く第一聲を送り始めた、十日にはバスが運轉を開始し十一日には[illegible]が開かれた、しかもそれは陣中の新年であつた、攻城戰の勇士達は山から松の木を伐つて門松を樹てた住民は白紙に赤インクで書いた日の丸の旗を掲げて祝意を表した、今年の正月はそれに比べてなんといふ整然とした大都市の新年であらう、明治通の商社街山腹の住宅街には門松が清々しい、港には南方からの貨物船、珠江通ひの河船が南の風に日章旗をはためかせて碇泊してゐる、兵隊たちは老若男女となく「お目出度う」を口にする、一年の間にかくも日本語が普及したかと心強い限りである、香ケ峰の麓大正公園には香港神社遙拜所が設[illegible]、又尾根ニコルソン山の西方高地には忠靈塔建設地の木標が立つてゐる、昭和十八年の新春には香港の在留同胞はこの忠靈塔の高地で初日の出を拜し木の香も高い香港神社に初詣をすることになるであらう

**一掃された頽廢と奢侈**

初春の香港の街の姿を見て過去の英國支配時代の香港を思ふと先づ第一に驚くことは都市生活の緊張ぶりである、かつての香港の除夜には香港ホテル、グロースター・ホテル等の大廣間には酒と脂粉の香に充ちて夜を徹してのダンスが行はれたものであつた、當時香港には五百人の白人娼婦がをり、これをめぐつて五萬人の美女が住むと言はれてゐた、支那娘を「唆物」にする商人や銀行家が享樂をむさぼるあらゆる便宜が備はつてゐた、そしてシャンデリアの燦々と輝くホテルの窓の外には家もない難民が街路に食もなく彷徨つてゐた、しかし今日の香港からはかかる頽廢と奢侈は完全に一掃された、白米、麵、食料油、砂糖の主要食料品は公定價格で指定配給所から支給される、金持も勤勞者も區別はない、しかも食料品の價格は少くとも南支ではどこよりも一番安い、香港は[illegible]勞者の町である、嘗てクイーンス・ロードに充ち溢れてゐた紳士淑女小姐や交際花といはれる美女は何處へ行つたであらうか、これに比べて著しく增加したのは働く婦女子達である、日本人、華人の會社の事務員、工場の女工、[illegible]の少女車掌は[illegible]つた新香港の象徵である

**繁榮を約束される中繼港**

香港の住民は外形ばかりでなく確かに心構へも一變してゐる、當時香港の人間は駝鳥主義だといはれた、危險がくると砂の中に首をつつ込んで安全をする駝鳥者の意味である、その駝鳥主義を端的に表現するものは香港の山々の腹を貫いて掘られた防空壕である、然しこの巨費の金をもつて掘られた防空壕も最早香港では用がなくなつた、去年十月香港は初の敵空襲を受けた、然し砲彈下に市民は平然と立つてゐた、彼らは壕内に入らうともせずに我が荒鷲が敵機を鮮かに擊墜する空中戰を拍手して見てゐた、香港の住民は確かに一變した、そして更に東亞を見渡つてゐた習慣はやがて眼の底から大東亞人としての自覺を把握するに至るであらう、その日こそは香港が大東亞共榮圏の大中繼港としての新しい繁榮を約束される時であらう

## 食道樂の街"廣東"

### 日本人にも馴染深い廣東料理

**願望の四州**

支那の諺に「蘇州で生れて杭州で暮して」といふことがある、蘇州は水が美しく美人で名高い、美しい顏容に生れたいのはいづこの人間にも變りはない杭州は杭州西湖上下のあの杭州で華の勝地である處は又「食は廣州、死ぬなら柳州」と云つてゐる、以上の蘇州、杭州、廣州、柳州の四州が支那人の一生の願望を象徵してゐると云へなくもない、この廣州こそ廣東のことで廣東料理は所謂廣東の料理ではないがうまいことは支那でも定評がある、日本にある支那料理店は大抵廣東人の經營だといふから廣東料理は日本人にも馴染が深いわけだ、最後の柳州は廣西省にあつて材木がいいので有名である「柳木と死」と云へば何か邪氣でも默想しさうだが柩を大切にする支那では死後の柩の材料は生前から重大問題である、そこで一生の願望の中に取入れてゐるのも所謂支那風なのであらう

**廣東の食道樂**

「大阪の食ひ倒れ」といふが支那で名にし負ふ食道樂の街廣東の名物は所々總を異にしてゐる、一般によく知られたものに大三元といふ料理店の鱶の鰭がある、これは從來一皿（八人前）六十元といふ定價であつたが今では[illegible]百六十圓ほどとする、その[illegible]の鰭は全部日本からの輸入である、嘗て廣東で日貨排斥運動が起つたころ最初に排斥を掛けたのは廣東人自身であつたといふ話が殘つてゐる、肝腎の鱶の鰭が來ない[illegible]（これも支那料理には缺かせないもので日本產を使つてゐる）が來ないといふので食道樂の廣東人に一大恐慌を惹起したのだ、其の外珍らしいものには蛇料理、猿料理をはじめ鼠、猫、犬などの料理がある、犬鍋は料理が手輕に入手されるので下層階級でも食べるし[illegible]と肥えた仔犬や猫を金網の籠に容れて「犬や猫」と觸れ歩く商販もある、犬は生後一年ほどの赤犬がうまいといふ、さういへば町の辻で來る犬はたいてい赤毛の仔犬だ、猫は年若いほどいいさうである、さういふ犬や猫を買ひに來る邦人を呼び止めて物色してゐる支那の内儀の口のあたりはなしか涎でも滴み込んでゐさうに見える、鼠料理はさすがに廣東でもゲテモノやイカモノの部類に屬するらしい、[illegible]早くなど街を歩いてゐると鼠[illegible]にでもかかつたらしい大鼠の毛を丹念にむしつてゐたりする姿を見かけるがこれは一寸氣味が惡い、普通料理に使ふ鼠は生れたばかりの仔鼠である、親鼠も野鼠ではない、ただ面白いのは[illegible]で飼つておいてその子を食べるのである、それも生まれたままの奴を尻つぽをつまんでその鼻の先に酢味噌のやうなものをつけて一寸仰向き加減に口に入れるのだが咽喉を通るときキュッと鳴かせるのが通だといふ、但しこれは本當かどうかまだ試したことがないから保證の限りでない、[illegible]飲む、注文すれば客の前で料理してくれる、蛇を割いて尻に小指の先ほどの黃色の膽をつまみ出す、それを酒のコップの上でつぶして膽汁をしたたらして飲むのである黃金の酒の中に沁みて擴がる濃綠の液の色は廣東人の食道樂する[illegible]である、その外猿料理、猿酒等があるがこれは珍奇でやや仙に近いついでに話も俗界を飛躍してしまはう

**祖師西來**

禪宗の祖師達磨が梁の武帝の頃印度から支那に渡つて來たことを知つてゐる人も達磨が初めて渡來した土地が廣東であることを知る人は少いであらう、廣東市内の西關といふ所に五百羅漢で知られた華林寺がある、[illegible]堂宇は北伐當時[illegible]り拂はれ寮舍に充てられて跡方もなく寺内には[illegible]が一つ殘存してゐるがこの地が支那ではじめて達磨が錫を留めた所と言ひ傳へられてゐる、そのあたり街の名を西來街と呼びわづかに「祖師西來」のゆかりを偲ばせてゐる、華林寺には等身大よりやや小さい五百羅漢が並んでゐるが細工もまづい金箔で塗りたくつてあつて素人眼にも一向面白くない、ただ面白いのは五百羅漢の中にマルコポーロが混つてゐたり日本人がゐたりすることだ、日本人の羅漢は[illegible]會者と云ひその說明に唐時代に渡來し[illegible]とはつきり書かれてある、專門家に調べて貰へば何か分るかもしれない、達磨から六代目の祖師で慧能禪師といふ人もこの地に來てゐるし廣東は禪宗で法燈の由だつた土地である、有名な「風幡の問答」は廣東の光孝寺で行はれたのだといふ、ある風が[illegible]に吹いてゐた日の午後、寺僧が二人寺の幟に見とれたから問答をしてゐた

「あの幟は動いてゐる」

「いやあれは幟が動くのではない、風が動くのだ」

「いや、たしかに幟が動いてゐるぞ」

折から通りかかつた慧能禪師が之を聞いて笑つて云ふには

「あれは幟が動くのでもなく風が動くのでもない、ただお前たちの心が動いてゐるのだ」

[illegible]がわかる答もなく[illegible]とはこんなものかと思つて聞いた、そんな話の殘る光孝寺も[illegible]の兵舍に充てられてゐて昔日の面影もない

**珠江の花艇**

[illegible]「花は[illegible]」とある話を右に脫して珠江の蜑民の生活を見よう、蜑民の生活に就いてはいづれ詳しい紹介をする折もあると思ふが彼らは水の上に生れ水の上に暮し水の上で死んで行く陸から追はれた宿命の種族である、かなり以前のこと[illegible]河畔の家に住んでゐたころ[illegible]珠江の水に漾りながら流れて來る死體を幾度も見かけた、蜑民は水葬をするものだ「[illegible]」などといふ古い句が何んとなく思ひ出されたりした、蜑民が[illegible]のは一人で[illegible]を二本[illegible]さして漕ぐ、彼らは[illegible]ので[illegible]行く二人で漕ぐ時には一人は舟の[illegible]に腰を下して舟頭の[illegible]が[illegible]であつて[illegible]は大抵[illegible]、小さな舟が[illegible]て右往左往する[illegible]にも水の街の[illegible]である、大小[illegible]の舟、[illegible]舟[illegible]は美しい[illegible]の[illegible]を[illegible]くなつた[illegible]であるがこれとても昔の[illegible]あるフラワア・ボートであるがここに[illegible]てゐる「花艇」といふのは[illegible]を[illegible]いた珠江の濁水だけが千古[illegible]として廣東の[illegible]も知らぬげである

# 大いなる祭

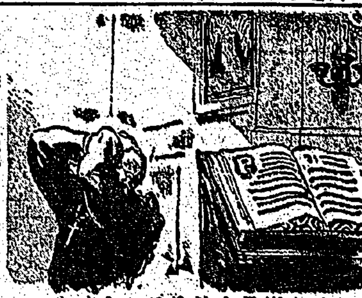
(25)

中野實作

三芳悌吉畫

**白旗（一）**

大本營海軍部發表、十日午後四時五分、帝國海軍は開戰劈頭より英國東洋艦隊、特にその主力艦二隻の動靜を注視しありたるところ昨九日午後帝國海軍潜水艦は、敵主力艦の出動を發見、爾來帝國海軍航空部隊と緊密なる協力の下に搜索中、本十日午前十一時半マレー半島東岸クワンタン沖に於て再びこれを捕捉し、勇猛果敢なる攻擊を加へ、午後二時二十九分戰艦レパルスは瞬時にして轟沈し、同時に最新式戰艦プリンス・オブ・ウエルズは忽ち左舷に大傾斜を起し暫時にして[illegible]遂に[illegible]。ここに英國東洋艦隊主力は全滅するに至れり……



「おお神様……」

アルメイダは泣き出しさうになつて、[illegible]にひざまづいた。

「とても私には信じられません。あのレパルスとプリンス・オブ・ウエルズが沈むなんて、そんなことは信じられません。おお、神様世界の七つの海を支配するわが英帝國の誇りが、日本の飛行機によつて擊沈されるやうなことがあり得るでせうか。そんな、馬鹿なことが……」

その時、アルメイダの肩をたたいた者がある。これも紙のやうに蒼白な顏だ。大分[illegible]てゐるものと見え、アルメイダの本名、コックスを盛んに連呼する。

「コックスさん、コックスさん。やつぱり本當です。日本の發表は[illegible]發表です」

「なに發表だつて。フロイス君」

「さうです。今、本國の海軍省でも正式にコムミュニケを發表したのです。海軍省は、ええと、一寸待つて下さい」

と、フロイスはメモを出して、

「海軍省は左の如く發表することす。すなはち、シンガポールよりの報道によれば、戰艦プリンス・オブ・ウエルズ及戰艦レパルス[illegible]〇・リー大佐、トマス・フイリップス東洋艦隊司令長官以下、ならびに艦長レパルス艦長J・G・テナン大佐は救出されたり。詳細については[illegible]の攻擊によつて沈沒されたりとの日本側の發表以外いまだなんらの報告なし——以上ですぐらいことになりました」

フロイスは、ヤヤパレーリスボンの[illegible]人だ。[illegible]く目が[illegible]、[illegible]してゐる。

「どうもなんとも早[illegible]よかしてゐる…私は、あなたが[illegible]間違つたやうにあの新式のウエルズとレパルスがある限りは、マレーに上陸した日本軍は袋の鼠だと思つてゐたんですが……」

すると、突然アルメイダは[illegible]でも投げつけられたやうに[illegible]を作つて

「なあに、あの英艦だけが英國の全部ぢやあるまいさ。シンガポールが落ちて堪るものか」

「しかし、九龍半島方面の戰況は面白くなくて、金山と[illegible]を結ぶ香港沿の本防衛線は今夜一ぱいも持たないだらうといふことですが…みんながつかりして[illegible]てしまうたんでせうか」

「馬鹿を云ひたまへ。いくら香港要塞の戰況が不利でもマレー沖の戰敗で、第一線の印度兵や濠洲兵に知らせるものか」

「でも、澳門の町の連中はもうみんな知つてゐるさうですよ。今こそ英國側についてゐた支那人が[illegible]すやうに、日本につき始めたんです。アルメイダさん、これについて……」

とフロイスは聲をふるはせた。

謹賀
貫け！一億鐵石心
皇紀二千六百三年

林口庄茶業株式會社
文山郡漁業協同組合
龍山旅館
新店庄米穀配給組合
新店信用販賣購買利用組合
文山木材合資會社
文山木材組合
正榮運送店
文山郡洋服裁縫商組合
南進商店
文山郡食料品配給組合
卓源發商店
臺北州機械製品小賣商組合文山郡支部
文山郡冰菓業者組合
文山郡[illegible]店商組合
高柏森商店
陳[illegible]商店
文山郡菓子製造組合
文山郡茶業組合
文山郡麵類製造組合
文山郡日用品小賣商組合

文山產業株式會社
新太陽鐵工所　松本重信　電話四一七九
新莊郡物產信用販賣購買利用組合
文山郡精肉商業組合
文山郡理髮營業組合
文山代用食品工場
文山郡陶器荒物商組合
文山郡時計商工組合
大記洋品店
長榮製材所
金山信用購買利用組合
金山漁業協同組合
金山茶業組合
萬里信用購買利用組合
萬里漁業協同組合
石門信用購買利用組合
三芝信用購買利用組合
老梅信用購買利用組合
淡水朝日商會
頂川拓殖株式會社

淡水劇場株式會社
淡水郡炭坑木類出荷組合
淡水郡內[illegible]業組合
臺灣銀行淡水支店
淡江信用販賣購買利用組合
淡水港　株式合社施合發商行
淡水產業株式會社
淡水茶業株式會社
淡水漁業協同組合
淡水建築信用購買利用組合
淡水信用組合
淡水合同運輸株式會社
宜蘭產業資源株式會社宜蘭支店
宜蘭製油株式會社
宜蘭土地建物株式會社
員山信用購買利用組合
礁溪庄精米組合
頭圍庄精米組合
宜蘭精米株式會社
宜蘭土地建物株式會社
宜蘭市家畜商組合
臺北州竹細工品製造販賣組合
砂田商行
石城子漁業協同組合

羅東街
羅東運輸株式會社
羅東合同運送株式會社
日本通運株式會社
羅東郡米穀配給組合
臺北州羅東郡三星庄
宜蘭市旅館營業組合
宜蘭信用組合
蘇澳信用販賣購買利用組合
蘇澳拓殖株式會社
蘇澳庄白米
南方澳漁港
[illegible]